

# 日本ゴルフ学会関東支部

## 第1回サマーセミナー実施報告

報告者 鈴木タケル

2025年8月21日、22日の両日、群馬県ノースヒル Fujioka およびサンコーカントリークラブにおいて、日本ゴルフ学会第1回サマーセミナーが開催された。本セミナーは、2025年度第35回大会（11月15～17日）において、参加者に紙上または口頭発表を義務づけ、研究実績を積み上げることを目的とするとともに、近年減少傾向にある発表数の回復と学会活動の活性化を図るために企画されたものである。

1日目は、練習打席やパター・アプローチ練習場において、参加者が計画した実験が実施された。大学教員、プロゴルファー、学生、練習場経営者など多様な属性の参加者が集まり、初対面ながら「ゴルフと研究」という共通項を通じて協力的に取り組み、次第に活発な意見交換が行われた。夕刻以降は北先生（武蔵野美術大学）による研究倫理や研究作法に関する「研究リテラシー」の講義、続いて難波先生（大阪大学）による統計学的分析手法や解釈についての「統計分析」の講義が行われた。その後、翌日の発表に備えて各参加者が夜遅くまで分析作業やスライド作成に取り組み、短期間で成果をまとめ上げる経験を得る貴重な機会となった。

2日目午前は、サンコーカントリークラブにて夏の時期に応じたテーマによるフィールド測定が実施された。午後は12時から16時にかけて研究発表会が行われ、各自が前日の実験内容と結果を10分程度で発表し、質疑応答が活発に展開された。発表を通じて、プロによる経験知と研究者による分析的視点が交差し、参加者の知的好奇心を大いに刺激する場となった。初日には実験グループ間に隔たりも見られたが、次第に互いの研究に対する理解と関心が深まり、分野横断的な交流が促進された。最後に橋口支部長（帝京科学大学）による閉会の挨拶をもって、全日程を終了した。

本セミナーを通じて、応用実践者（プロ、経営者）は文脈的・経験的な研究アイデアを提供し、一方、研究者（大学教員）はデザインや分析スキル、倫理的知識を提供し合うことで、相互に補完しながら質の高い研究活動を展開できる可能性が示された。今後も本セミナーが、研究者と実践者が協働し、学会へ信頼性の高いデータを還元しうる場として継続・発展することを期待したい。

以下 私の方でよい写真が取れていませんでした。よい写真があれば提供お願いします。

